

# 地質ニュース

第448号 1991年12月

## 目 録

オスロ地域の花崗岩類と石材	蟹澤 聰史・編集委員会
宮城県 登米の粘板岩	石原 舜三
オスロ地域—近代岩石学発祥の地と古リフト—	蟹澤 聰史・6
ラルビカイト	山田 哲雄・17
アルゼンチン、ソトの董青石石材	石原舜三・グラツィエッタ カプラレツリ・24
玄昌石—宮城県産二疊紀粘板岩—	滝沢 文教・30
四国の中央構造線	高橋 治郎・39
ナチュラル・アナログとしてのオクロ鉱床	
—同位体化学的アプローチ—	日高 洋・増田 彰正・46
ユニークな地質系博物館(6) 沼田の大理石村	石原 舜三・佐藤 興平・54
ニュージーランド便り(3) 西洋のかんなと日本のかんな	河内 洋佑・56
PHOTO EYE (10)	野沢 保・59
ジャパン・ストーン・フェアを見学して	61
地質標本館だより No.28	62
I G C事務局ニュース	65
学会掲示板	67
地質ニュース総目次	69
花崗岩のふるさと：御影	29
新刊紹介	53
地学と切手	58・64

## 表 紙

花崗岩の節理：カリフォルニア州南部からカリフォルニア半島に分布する Peninsular Ranges バソリスは、白亜紀に貫入した花崗岩類からなり、放射年代・帯磁率・化学組成・同位体組成などに規則的な東西変化が見られる。大まかに言えば、東側ほどより「大陸的」な要素を持つ。一方、節理も東側で顕著になり、Salton Trough に近い砂漠地帯の山は、岩塊を積み上げたかのような様相を呈する。この膨大な数の割れ目は、新第三紀の Salton Trough の形成と密接に関係したものと考えられている。写真は、サンディエゴの東約60km のバソリス東端部で、片麻岩類（主に泥質岩、背景の暗色部）を貫く両雲母花崗岩。

(写真と文：鉱物資源部 佐藤興平)

通商産業省  
工業技術院 **地質調査所**

〒305 茨城県つくば市東1-1-3

Tel. 0298-54-3520, Fax. 0298-54-3533

Geological Survey of Japan